

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4673300044
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホーム あったかハウス日吉
訪問調査日	平成19年6月25日
評価確定日	平成19年7月25日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4673300044
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホーム あったかハウス日吉
所在地	鹿児島県日置市日吉町吉利796番地 (電話) 099-246-8111
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成19年6月25日

【情報提供票より】(平成19年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年 2月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	13.2 人

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有() 円) 無()			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (30,000 円)	有りの場合 償却の有無	有() 無()	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1		名	要介護2	4	名	
要介護3	8	名	要介護4	6	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	86 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ゆのもと記念病院・前原やすしくリニック・日置市立病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は開放的で明るく、季節の花が植えられた花壇や野菜を育てる園芸コーナーなどがあり、家庭的で落ち着いた環境である。「ゆっくり、ゆったり、けれども、しっかり」の理念の通り、温かい雰囲気の中で、入居者は思い思いに過ごしておられる。勉強会や検討会を積極的に行い、職員同士が情報を共有し、統一されたケアが提供できるように努力している。地域の運動会や行事にも積極的に参加しており、入居者の皆さんが楽しみを持ちながら、地域の一員として生きがいのある生活を続けられるように支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「入居者一人ひとりの過去を活かしたケア」については、入居者の生活歴が把握できるような記録様式に改善している。また「市町村との関わり」については、市の担当者と連携・相談して、市役所の窓口パンフレットやあったかだより、また行事計画書を置いてもらうなど、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価への取り組みを行い、意義を理解している。また自己評価や外部評価の結果を活かして、勉強会等で話し合いにより、改善・実施に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、地域・行政・ご家族・事業所の各代表を交えた運営推進会議が行われており、サービス内容や地域との関わり方、外部評価について報告され、活発な意見交換がなされており、そこでの意見・要望がサービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置したり、年2回送付する家族アンケートにより意見や要望、苦情をお伺いして、それを参考に運営方法などをミーティングで検討し、反映させるようにしている。反映した内容は、電話や訪問時、または月1回の手紙送付時に報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「せつべとべ祭」やマラソン大会の応援、地区運動会や校区バザーの見学、また中学生による体験学習受け入れや地域の方々によるホーム行事への参加など、様々な活動により地域との交流を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、ゆったり、けれどもしっかり」という基本理念のもと、地域の方との関係性を強化し地域の中で安心して暮らし続けるための取り組みとして、「あったか地域であったか交流 みんなで作ろう あったかの輪」という理念を加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りなど、職員全員で理念の唱和を行っている。また管理者は各職員に対し、日々のケアのなかで理念に沿った対応を促しており、職員はその姿勢で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「せつぺとべ祭」やマラソン大会の応援、地区運動会や校区バザーの見学、また中学生による体験学習の受け入れや地域の方々によるホーム行事への参加など、様々な活動により地域との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年1～2回職員全員で自己評価への取り組みを行い、意義を理解している。また、自己評価や外部評価の結果を活かして勉強会で話し合い、改善・実施に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域・行政・ご家族・事業所の各代表を交えた運営推進会議が行われており、サービス内容や地域との関わり方、外部評価について報告され、活発な意見交換がなされており、そこでの意見・要望がサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と連携・相談して、市役所の窓口パンフレットや「あったかだより」、行事計画書を置いてもらうなど、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、担当者が状況報告の電話をしたり、写真を添付した手紙を送付している。また金銭管理についても、担当者・管理者により二重確認を行った後に、面会時に出納帳の確認をして頂いたり、年2回の書類送付により報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、年2回送付するご家族アンケートにより意見や要望、苦情をお伺いして、それを参考に運営方法等をミーティングで検討し、反映させるようにしている。反映した内容は、電話や訪問時、または月1回の手紙送付時に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が馴染みの職員による支援を受けられるように、各ユニットの職員をほぼ固定化して配慮している。最近1年間は離職・異動はほとんど無く、新しい職員が入る場合も可能な範囲で事前に紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を段階に応じて育成するために、年間計画に沿って事業所内研修が行われている。また事業所外研修についても、職員の希望に応じて研修が受けられるように配慮されており、研修内容は勉強会での報告により全職員に伝わるようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム連絡協議会に加入しており、協議会主催の研修等で他の同業者と交流する機会を作っている。また同じ法人内に複数のグループホームがあり、その職員同士の交流もあり、サービスの質を向上させていく取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に職員が入居希望者宅に訪問し、本人の状況把握や家庭環境の把握を行い、ホームでの生活に反映できるような配慮を行っている。また、どうしても馴染めない場合は、ご家族に相談してしばらく付き添って頂けるように対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔話をしたり、園芸で野菜の育て方・料理の味付けの仕方・掃除の仕方・礼儀作法等を入居者から教わっており、介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら入居者から学んだり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の行動や表情を常に観察し、入居者の思いや希望に沿った対応を行っている。また入居者一人ひとりの得意なことやしたい事の変化の把握にも日々努め、意思疎通が困難な場合は、ご家族からの情報により、ミーティングにおいて職員全員で検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	より良く暮らせるように、入居者やご家族の要望を取り入れながら関係職員と話し合い、その意向や課題が反映された介護計画を作成している。		入居者にとって、生きがいとなっている役割や得意とする仕事の詳細、さらに「出来なくなった活動」が「少しでも出来る」ような自立支援内容等を盛り込んだ介護計画が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常、6ヶ月ごとに担当者会議による総合的な見直しを行っており、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、その都度本人・ご家族の同意を得て新たな計画が作成されている。また介護目標については毎日チェックしており、毎月モニタリング内容が記録されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院による外出援助や理美容院の利用、また医療連携として3箇所の病院との連携、ご家族の宿泊希望への対応など、必要な支援を行っており、現状で行える範囲で個々の満足を高めるような努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望に応じて、納得が得られた医療機関に受診できるように体制を整えている。入居以前のかかりつけ医に対する受診希望にも対応できるようにしているが、医療連携体制による病院との連携が十分図られているため、現在、他の医療機関への受診希望は無い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について、本人・ご家族と十分に相談が行われており、必要に応じて往診や入院時期の検討など、ターミナルに向けた適切な方針の共有が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導方法や失禁による衣服汚染など、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように配慮がなされている。また個人情報の記録物も、職員詰所に見えないように保管されており、秘密保持の徹底がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常の流れは決まっているが、職員側の決まりや都合を優先することなく、入居者の意思を尊重して、無理強いしないように時間をかけて頂くように配慮し、食事や入浴等も一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を尊重して希望に沿った献立を取り入れ、一人ひとりが出来る範囲で職員と一緒に買い物や食材の準備・調理・食事・後片付けを行っている。職員と入居者は、同じテーブルで楽しく食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特別な希望がなければ、基本的な流れとして日曜日を除く毎日、午後の入浴となっているが、「午前中に入りたい」や「(日曜日)今日は入りたい」という希望があれば、それに応じて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸・料理・手芸等のクラブ活動をいくつか準備しており、入居者全員が一人ひとり得意とする分野に参加している。その他に詩吟の先生が定期的に訪問されたり、毎週日曜日はドライブに出かけたりして、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物には毎日、散歩は週1・2回、毎週日曜日にはドライブ、遠足は年1回等、様々な外出支援を行っている。また時折、付近の食堂に全員で食事に出かけたりするなど、入居者全員が外出できるように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの行動パターンを把握し、日中は鍵をかけずに対応している。地域の方にも協力を求め、入居者が一人で外出されていた場合、すぐに連絡が取れるような関係作りもできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、職員と入居者で地域の消防署の協力の下、避難訓練を行っている。避難の際の居室内の確認が早く確実に行えるように、各居室ごとに手作りの札を利用して工夫されている。また交流会や運営推進会議で、地域の方に協力をお願いしている。		地域の協力体制を作るために、地域の方にも避難訓練に参加していただく機会を作り、より強い協力体制を確立して頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量及び水分摂取量が、細かく記録されている。一週間分の献立を入居者と共に決めており、一人ひとりの状況に応じて、管理栄養士に相談できる体制ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の感じられる掲示物や花が飾られていたり、ゆったり出来るソファや畳スペースが設置されており、入居者が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には布団・テレビ・仏壇・タンスなど、馴染みの家具や小物が多数持ち込まれ、湯飲みやお箸も個人のもので使われているなど、慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		